

保険福祉総合計画のためのアンケートの調査結果(中間報告)報告会

令和 5 年 5 月 12 日(金)

18 時半～19 時半

地域交流センター2 階会議室

松本課長

△私は本日の進行を務めさせていただきます住民福祉課 課長の松本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

△今回のアンケートにつきましては、令和 6 年度から 6 カ年の第 1 期佐々町保健福祉総合計画を今年度策定するに当たりまして、町民の皆様のご意見などを具体的に計画政策事業に繋げていくために、全世帯の世帯主様にアンケートを郵送し実施いたしました。アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。△報告につきましては、本アンケートをとりまとめていただきましたMK総合研究所の幕さんと多世代包括支援センターの江田参事からそれぞれ報告をさせていただき、その後、皆様からのご感想やご意見をお受けしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

幕さん

△本日、お集まりいただきましてありがとうございます。それでは早速始めさせていただきます。4 年前に同じようなものを送っています。当時は町内会に加入されている世帯主様宛にお送りしました。今回は全世帯主宛に郵送しています。

△4 年前との大きな違いは、保健の分野ですね、保健や健診の部分を全部含めた形のアンケートにしたということが大きな変わったところでありまして、なぜそう変わったかは、今回は保健福祉総合計画というものの計画策定のためのアンケートを取るところなので、保健の部分も手厚くアンケートをとるということになっております。

△暮らしの視点から見直すと、要するに今までその地域福祉計画というのが 4 年前に策定されていますけれども、あらためてその暮らしの視点から見直しということになると、どうしてもその保健医療の部分を抜いて福祉部門単体でつくるということは、よろしくないということです。

幕さん

調査結果(中間報告)説明・報告

- 佐々町では令和元年度に地域福祉計画を策定し、多世代包括支援や移動支援、ボランティアポイント等の取り組みを進めて参りました。
- この地域福祉計画を「暮らし」の視点から見直し、健康づくりや介護予防を含む幅広い分野で、地域における支え合いを大事にするまちづくりを目的に「保健福祉総合計画」として更新することとしています。
- アンケート調査への御協力ありがとうございました。
- 発送 6,158 票中、2,259 票のご回答（回収率 36.7%）を頂きました。

- このアンケートは、世帯主の方を対象に実施しました。
- 世帯主以外の方も含めた町の人口構成比と比較すると、60 歳以上の方の回答が多く、全体の 6 割を超えています。
- また、男性が回答者全体の 6 割を超えています。

- アンケートでは、最初に保健分野に関する設問、次に福祉分野とボランティアに関する設問を伺いました。
- BMI という肥満度を表す数値（体重÷身長²）は、7 割弱の回答者が 18.5～25 未満の普通体重ですが、25 以上で肥満の傾向がみられる方が、25%以上いました。

- 1日 30 分・週 2 回（合計週 60 分）の運動習慣がある人は、ない人と比べて生活習慣病の発症リスクが低いと言われていたのですが、週に 2 日以上運動習慣のある人は、回答者の半分以下（45.1%）です。「ほとんどまったく運動していない」という回答が、全体の 4 割以上を占めました。
- この運動不足の傾向は、50 歳代以下の方で顕著です。

- 健康診断の受診率は他の検診より高く、回答者の 8 割以上が年 1 回受診しています。
- がん（胃・肺・大腸）検診も年 1 回受診する人が多く、回答者の 4～5 割でした。「ほとんど受けていない、または受けたことがない」との回答も 3 割を超えています。
- 女性を対象とした、子宮がんと乳がん検診については、「ほとんど受けていない、または受けたことがない」との回答が半数を超えています。

- 喫煙者は、回答者の 2 割弱。そのうち半数以上は、禁煙に関心があるとしています。
- 回答者の半数弱は、飲酒の習慣が無い。回答者の 2 割は毎日飲酒する者です。一般的な男性の飲酒適量は、日本酒で約 1 合と言われますが（女性はその半分）、飲酒の習慣のある者のうち 4 割は同 1 合未満と回答しています。

- 夕食後（寝る前を含む）に歯磨きする人は、回答者の 8 割以上います。次いで朝食後の 6 割で、朝食後と夕食後の 1 日 2 回歯磨きする回答者が多い。
- 歯科検診の頻度は、大人で 3～6 か月に 1 回とされていますが、同頻度で受診しているのは回答者の 4 割弱でした。ほとんど受けていない、または受けたことがないとする回答者も 3 割弱おられます。

- 回答者の約 8 割は、ほとんど毎日 3 食食べています。
- 1 日に 2 回以上、主食・主菜・副菜を 3 つ揃えて食べている回答者は、全体の約 6 割。
- 朝食または夕食を、ほとんど毎日家族と一緒に食べている回答者も、全体の約 6 割。

- 約 8 割が、睡眠が十分あるいはまあとれていると回答。
- ストレスや悩みを抱えた際の解消法では、話を聞いてもらうとする回答者が最も多く、全体の約 4 割でした。その相談先として、約 8 割の回答者が家族、約 5 割が友人を挙げています。

- 介護・介助が必要な同居者がいる回答者は、全体の 2 割弱でした。
- そのうちの 9 割は、70 歳代以上の方です。約 4 割が介護認定を受けています。また、身体障害者手帳を持つ人も 25% います。一方で、手帳や介護認定等を持たない人も、4 割弱います。
- 中心となって介護・介助してくれる方は、配偶者や子ども・孫が多く、いずれも回答者の 3 割を超えています。

- 介護・介助する方が、外出するときに困ることとしては、電車やバス等公共交通機関乗降時の困難を挙げる人が 3 割で最多でした。
- 次いで道や建物、交通機関がバリアフリー化されていない（23.3%）、交通費の負担が大きい（26%）と、移動・交通に係る困りごとを指摘する回答者が多い。

- 介護・介助が必要な方が、これから先も住み慣れた地域で暮らし続けるために必要な支援としては、経済的な負担の軽減（59.4%）が最も高く、次いで在宅で医療ケアなどが適切に得られること（54.4%）、必要な在宅サービスが適切に利用できること（49%）と続く。

- 多世代包括支援センターでは、災害時に特に支援が必要な人を「避難行動要支援者」として名簿を作成し、地域と連携した体制づくりに取り組んでいます。
- 災害発生時の、介護・介助が必要な方への手助け・支援としては、家族との連絡と避難

所における医療・介護の確保と回答する人が、過半数を超えました。精神的な支え（26.5%）以外の選択肢項目（避難誘導 48%、災害の状況や避難などの情報の入手 43.1%、避難所における障害者の利用に配慮した環境の確保 41.8%）はいずれも、4割を超える回答者が必要としています。

- 日常生活や職場で困ったり不安を感じ、誰かに相談したいこととして、最も多くの回答者が挙げたのは、病気や健康、障がいのこと（28.8%）、次に、収入・生活費、債務などの金銭的なこと（21.8%）でした。
- 困った時の相談先として、8割以上の回答者が挙げたのは、家族・親族。友人・知人を挙げた回答者も4割以上いました。
- 次いで、役場・多世代包括支援センター6.8%、医療機関やその関係者 6.6%、職場や学校関係者 6.3%、近所の人 5.3%、福祉サービスの職員 4.9%と続く。
- 相談したいができないとする回答が 4.9%でした。相談したいができない理由として最も回答が多かったのは、どこ（だれ）に相談したらよいかわからない（46.3%）でした。次いで、相談しても満足がいく回答がもらえないとする回答が 38.8%ありました。
- 自宅周辺で感じる不安・不満については、「住民同士の交流 機会が少ない」を 24.1%と最も多くの回答者が挙げました。
- その他 2割以上の回答者が挙げている項目としては、治安や防犯対策（21.7%）、バスの路線の縮小や便数減少など（21.5%）、災害時の協力体制の不安（20.7%）、地区の役員のみ手不足（20.3%）となっています。
- 障害がある方に対する差別や偏見がある、または、ある程度あると思うと回答した人は、全体の 15%弱であり、差別や偏見は無いとする回答（27.9%）よりも少ない。
- 障害がある方のために特に力を入れるべきだと思える施策としては、相談体制や情報提供の充実（48.4%）、障害がある方に配慮したまちづくりの推進（住宅、道路など）（40.3%）、就労の援助や雇用の促進（40.1%）を、多くの回答者が挙げています。
- 成年後見制度の利用者は、回答者全体の 1.6%でした。
- 同制度を知らない（はじめて知った）、または言葉は知っているが内容は知らないとする回答者が、全体の 6割を超えており、普及啓発に課題があることが解ります。
- 地域福祉の取り組みとして挙げた項目は、全て回答者の 15%以上が必要だとされました。
- 中でも情報提供の充実（45.8%）、地域での支え合いの仕組みづくり・きっかけづくり

(40.6%) の回答率が高い、次いで災害時の協力体制の充実 (37.1%)、子供の居場所づくりなど育児・子育て支援体制の充実 (34.9%)、防犯・交通安全対策の充実 (33.6%) までが、3 割以上の回答者が必要とした項目です。

- 令和 2～6 年度を計画期間とする現「地域福祉計画」で示され、取り組んできた町の重点施策への認知度は、いずれも回答者の約 3 割を超える。

子育て世代支援センター（ぽっかぽか）の開設 42.8%

様々な相談窓口の多世代包括支援センターへの一本化 38.9%

官民連携による移動支援の拡充 44.4%

生活支援ボランティア活動のポイント制度を通じた奨励 36.9%

佐々町立診療所での小児発達専門外来の開設 28.6%

- 地域の支え合いやボランティア活動による生活支援サービスについては、いずれの項目についても、4 年前の前回アンケート同様、手助けできると回答した数が手助けして欲しいとする回答を上回っていました。

- 地域の支え合いやボランティア活動への参加を後押しする町の施策としては、初めての人が参加しやすいきっかけづくりを挙げる回答者が 7 割弱いました。

- 次いで、ボランティア活動の広報・啓発 (29.4%)、ボランティア養成講座などによる人材の育成 (23.3%)、活動の拠点整備 (18.4%)、活動に対する報酬（ボランティアポイントなどを含む）(17.1%)、活動団体ないし個人に対する資金援助 (16.6%) を挙げる回答者が多い。

福祉や健康について知りたい情報としては、

- ✓ 高齢者に対するサービスの情報（介護保険含む） 52.7%
- ✓ 福祉や健康についてのサービス利用方法などの情報 39.1%
- ✓ 健康づくりについての情報 36.3%

などが挙げられました。

△ご報告は以上です。より詳細なアンケート結果は地域共生推進協議会の中で、基礎資料として出していきます。あとはその計画がパブリックコメントで、皆様方の方に公開される時点ではですね、その付属の添付資料として計画書の後につくような形で、最後に決着がつく前に、皆様方にも、お示しすることになると思います。ぜひ注目していただければと思います。私からの説明は以上です。

江田参事

△今日は本当にお集まりいただきましてありがとうございます。今回保健福祉総合計画の作成に当たりまして、6年計画になっております。この計画の策定に当たりまして多くの回答いただきまして、今コンサルの幕さんから報告いただいたような内容になりました。

△私は行政としての意気込みを語る役割として今少しお時間をいただいているところです。△この計画は、総合計画と言いますように、今まで高齢者の分の計画であったりとか、障害の分野の計画、健康作りの計画、子育て世代の計画、細かくとなると自殺対策であったり後見人制度であったり、そういったいろんな計画が国の方から下りてきております。こうした計画に基づいてしていこうというのが、何十年も前からそれぞれの時期をズラしてきていた。△それを私達もまじめに国の言う通りやってきていたっていうところですけどもこの計画、今回は一つにまとめていこうというところになりました。△そこに至った経緯を考えておりますと、18年前になります。ちょうど包括支援センターができた頃になります。△このときに高齢者の分野の地域包括支援センターということでスタートしたけれども、その時に本当に国の制度に乗っていけば、これから日本や地域は救われていくと信じてマニュアル通りに行っていました。△その当時、佐々町は介護認定率や介護保険料も県内でもワースト1位という状況でした。本当に国の言う通りにした結果が、ますますそのワースト1位をキープするような形になってしまう。△何か地域の方々がそれぞれの組織の方で頑張っているのに、なぜこういう結果になるのか、虚しさを感じていた2~3年がございました。△その壁を救っていただいたのは、ここにいらっしゃる皆様、地域の皆様の活動のご様子だった。例えば1人のご高齢者の方を支えたいと言ったときに、なかなか行政で支えきれないところを、隣の方が見守っていただいた。

△みんなで頑張っていて、各地区の集会所で介護予防の取り組みや健康づくりをされる皆様方、そういった方々のお姿を見た時に、国や県の方を見るのではなくて、地域の皆様のお声のもとに、そこから課題を共有しながら、皆さんとともに課題解決をはかっていくことが大事ということに気づいた。これまで3年間の下積みがありながら15年間やってきた形になるのかなというのを思い起こしております。

△そうする中で、介護保険制度、そういう制度を、最終的には利用する形になりますけれどもその手前でできることは何なのかを、皆様とともに考えさせてきていただいたところです。△例えば政府に頼っていったら、隣の人が少し不自由でゴミ出しができなくなった。そこで、これからは介護保険制度というのを申請してヘルパーさんに来てもらうと、当たり前には繋げば簡単です。けれども、隣の人が最近杖を使うことになったので、どうかと思うけれども、ヘルパーさんが当たり前の流れなのかと思い込んでしまっていたら、ちょっとした声掛けやお互い様の見守りが、なくなってしまった。

△制度に頼れば、頼るほど地域の希薄さが見えてきたところの危機感をすごく感じたときがありました。△佐々町には 30 町ございますが、各町内会を 10 年来回っております。毎年 30 箇所町内会長さんや民生委員さんや福祉協力員の方、ボランティアが集まる。その会に 30 箇所回らしていただきながら、皆さんとともに、それぞれの町や地区での困りごとや課題について共有をさせていただき、そしてそこから何ができるのかをともに考えさせていただきました。

△そうすることによって大半は、地域の皆様の方でこうやって、やっていこうということで、独自に活動されていきます。その中から町内会を超えたところでぷらっとさんの活動や引きこもり支援のなずなさんの活動、昔ながらのみどり会の活動など様々な活動が展開をしている状況です。

△これからも地域の方々とともにしっかりと課題を共有しながら解決していくということをしていきたい。

△そして、これは高齢者分野だけではなくて、子育て世代や障害の分野やそして健康づくりの分野、全ての方々と同じようなやり方で展開をしていきたい。いろいろあった計画書を一つにまとめて、そしてみんなで作っていこうという形になりました。

△昨年度、多世代包括支援センターがスタートしました。これを実現するために一つになるというこの多世代包括支援センターが住民の方々のお声をしっかりと聞かせていただくためにできた相談窓口であります。

△今アンケートの中ではまだ 3 割から 4 割方の認知度という形になっていますので、ますます力を入れて PR をしていかななくてはと思っています。

△そして皆さんのお声を聞きながらしていきたいことは、今の段階でこのやり方が一番かなと思っていることがあります。それは皆さんの「したい」ことを叶えていくことをやっていくのが一番かなと思う。

△今日会場には大体 50 名ほどの方がいらっしゃると思うけれども、この 1 時間前には 20 名のいろんな組織の代表の方々、町内会長さんや民生委員さんの代表の方に集まっただきまして、この検討のスタートを切るという会をさせていただきました。

△この 50 名の皆様のような積極的な方々が「こうあったらどうだろう、こういう形にしていきたい」という思いをそれぞれ実現できるようなことになれば、とんでもない佐々町になっていくのではないかというのを感じています。

△このアンケートにしても「手助けできるよ」というの方々、3000 人や 4000 人の方々がそれぞれしたいことをできやすいような状況を作っていけば、すごい佐々町になっていくのかなというのを感じております。△それぞれの方の 1 人 1 人のお声を聞きながら、「したい」を叶えていくこと。そうすることで、その方の心も体も健康になっていくことこの健康づくりが進んでいくと思います。△その方々が活動されることによって、地域の活性化がなされていく。この展開でやっていけたらどうかと思っているところです。△これ

は健康な方だけではなくて、障害をお持ちの方、小さいお子さんたち、そうした方々の「したい」を叶えていく。

△その手前ではいろんな老いや障害とか、そういったことに関して不自由を感じていらっしゃる方の、その不自由さを取っ払っていくこと、そういった不安をしっかりとサポートしていくことが大事かなと思っております。△国はいろいろな制度を下ろしてきますけれども、国のいう通りに制度を実現していただければ、どこも同じような市町村になっていくと思います。△佐々町の「暮らし一番、住むなら佐々」それを実現するためには、本当にやはり制度のはざまの部分の、1人1人のお声に解決を付けるような展開をしていかないと、特別の町にはなっていけないと思います。佐々だから良かった、佐々に住みたい、移住をしていきたい、そう思っていただけのためには、制度にない部分を皆さんとしっかりと進めていくところが大事かなと思っております。

△今回皆さんの代表の20名の委員の皆様「やりたい」をつなぎ合わせていただきたいと思いますけれども、その部分はですね、それぞれの組織の方々が横断的にしっかりと手を組んでいけるような形、そういった体制を作っていけたらなと思っております。

△そしてもう一つは、これからいろいろな問題が起こってくると思います。私達を感じるのには本当に10年か20年間の中でもいろいろな問題が浮上してまいります。そういったことにも、柔軟に対応していけるような多様性に対応していけるような柔らかさを持った計画でありたいと思っております。

△こういった展開を進めるけれども、本当に役場内で、住民福祉課と多世代だけではなくて、役場庁舎の全ての課において、地域の皆さんのご意見を聞きながら、その課題に対して解決をしていく、役場の体制になってきたと思います。

△私達の元にも本当に若い職員がたくさんおりますので、そういったものが皆さんとともに地域づくりを、していけるような形で役場全体も変わっていきたいと思います。

今日は総務理事も事業理事も来ておりますので、まさしくそういったところで全体が変わるというイメージを持ちながら進めていきたいと思っております。

△以上で意気込みの方を発表させていただきました。

中村会長（地域共生推進協議会）

△素晴らしい説明ありがとうございました。すごくわかりやすかったです。アンケートが5年前になされて、そして今回また出されて改善がかなり見られるということですが、そこに何か行政として目標を立てて取り組まれた結果こうなったのか、それとも何となくになっているのか。△今後の目標といいますか KPI とか、そういったものが立てられていくものなのか。一つ聞きたいところです。本当に「手助けしてほしい」に対して「手助けしてあげられる」が本当にアップしているこういう町ってすごいなと思った。△多世代包括支援センターは、僕はすごいと思っていたけれど、38.9%。アピールといいますか。一つはその KPI の問題を教えていただければと思います。以上です。

幕さん

△KPI の大事なところは、キー・パフォーマンス・インジケーターと言いますが、要するに、どれだけその計画に向けて頑張ったのかあるいはそれが実現したのかわかりやすい情報を提供になるのでしょうか。この多世代包括の 38.9%の認知度がありますので、ただこの 38.9%で認知された方は、「ちゃんと計画通りにできているじゃないか」と、そこに期待するので、「手助けできるよ」という協力の姿勢も増えていくと思う。△何を申し上げたいかというと、情報提供は、技術とか手段ではなくて、実直にその何か前に進めているということが皆さんに伝われば、期待したり、方向が違うよってというお叱りがきいたり、そこだと思う。そこを何か正直にさらけ出すことが大事だろうなと思ったりします。さらけ出すことは難しいです。△なぜ難しいのかわかると、防衛本能が働くってということではなくて、なかなかその、たくさんの制度たくさんの事業を抱えていて、何かしら皆さんに興味があるところだけを出して伝えるということが、平等の観点から難しいからです。△観光の仕事で行政がパンフレットを作る時に、「観光の施設は全て同じ大きさ、やる気のあるところも、やる気のないところも全て同じ面積で紹介しなさい」と言われる。頑張っているところも、ずっと休みのところも全く同じスペースでやったりする。KPI と言ったときに、全ての事業を羅列して、「ここまでやって、ここまでやった」ということよりは、皆様方、住民の方が、何が一番興味があるとか、何を一番注目して問題視しているという話が伝わってくると、さらけ出しやすいだろうと思う。

△聞かれれば回答できる。ただ、全部を説明しろと言われると非常にわかりづらい方になってしまう。必ず「情報提供が、情報提供が」と言われるけれど、なかなか前に進まないところはそこかなと思っています。さらけ出せない事情があるところを、なんか聞いてくれてという感じが注目してくれ、監視してくれてというそういう感じだと思います。

福田委員（ぷらっと代表）

幕さんの説明の中で、アンケートを取った時にボランティアの方に参加したいかと聞いたら、「したいよ」という方が結構多かった。佐々町ではもう 80%とか 70%の数字だった。

例えば廃品回収。昔からやっていました。しかし最近では、子供会の代表の方が「最近の子供さんたちは塾に行っている。クラブに行っている。そんな日曜日に、廃品回収なんかお手伝いはできませんよ」と言われる。最近非常に参加者が少なくて「もう止めた。もう廃品回収もしません」と、報告が来る。私もびっくりして、今まで町内会でできていた、そんなことはなかった。だから、時代も変わっているのかと思ひましてね、最近非常に悩んでいる。強制的に

しろということもできませんから。このアンケートのボランティアがしたい。しかし、総論賛成各論反対で、できませんよ。そういうようなことが、このアンケートの中には含まれているのではと、ギャップを感じる。その溝を詰めていくと、もっと高いボランティアの加入率や、する人が増えてくると思いましたので、意見を述べさせていただきました。

幕さん

△ボランティアと言っても、つまらないものには時間を使ってこないと思う。面白くするにはどうしたらいいのかを考えなければいけない。△やる気のある人が、面白いことを考えついた人が、どんどんやっつけていけばいいかなと思っていて、何かボランティアをやり始める、企画する人たちも、もっと今までの決まった方ではなくて、「こういうのやってみたい」、みたいな方がどんどん出てくるといいなと思っています。△初めてボランティアを企画してやるけどみたいな人が、不安にならずにできるようなことが大事。楽しくないとやっぱり来ないですね。

松尾センター長

△すいません。多世代包括支援センター長の松尾と申します。

△多世代包括支援センターが令和4年4月1年前に立ち上がりました。その中には健康相談センター、地域包括支援センターという部署を一つにして立ち上がったわけです。多世代包括支援センターが1歳と思えばですね、3割、ほぼ4割近い方がご存知で、知っていただいたところということは、私達としては嬉しく思います。

△子育て世代支援センター「ぼっかぽか」が令和2年から、始まっております。お姉さんと思いましたが42.8%と多世代よりも知っている方が多いという喜びも感じております。私達は一人一人の相談に毎日寄り添っております。本当にいろんな相談がセンターの方に上がってきます。連絡が来たりします。それに決して目を背けることはありません。△うちのセンターの職員は、パンッとそこの一つの相談に寄り添って、すぐに向かって動き出します。みんなが誰を止めることもないです。本当にすごいセンターだなと、思っております。みんなが勝手に動いてその日のうちに解決できることもたくさんあります。みんなの力だなと私本当に嬉しく感じております。こういう流れを、1人1人の支援にしっかり寄り添いながら、そうすることでいろんな人が多世代包括支援センターってこうやって寄り添ってくれるよっていうのに繋がっていくかなと思います。△先ほど委員20名の方に、私達の活動とですね、ともに動いていただく中で、その活動の中で皆様から、多世代包括支援センターの方の内容を、広げていく。そこで、横断的な力がまた広がっていくと思っておりますので、そこも本当に不安はないです。安心して、このセンターをやっていけると思っております。

△また、役場全体、一緒に多世代包括支援センターだけではないです。役場全体で、佐々町の皆様に優しく寄り添う、そういう社会を作っていきたいというのがあります。これからも、頑張っていきます応援の方よろしく願いいたします。

松本課長

△他にご意見、ご感想などはありませんか。

△予定の時間も過ぎてまいりましたので、アンケート報告会を終わらせていただきます。本日いただきましたご意見ご感想につきましては今後の計画策定生かしてまいりたいと考えております。

△それから、事前にお配りしておりますアンケート用紙への記入をよろしくお願いいたします。

△以上をもちまして、保健福祉総合計画アンケート報告会を閉会いたします。本日はお忙しいところご参加いただき誠にありがとうございました。